クロスロード新聞

第3号

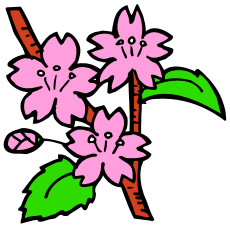
2006 年3月31日

怒濤の年度末発刊！「クロスロード新聞」第３号

発行元：108-8345　港区三田2-15-45　慶應義塾大学商学部吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

ファシリテータのための新知識：第2弾は高知市の今西さん

ファシリテータのみなさんこんにちは。お住まいの地域の桜はもう満開でしょうか？



前号の発刊から１ヶ月と短い期間ですが、クロスロードの新情報をお届けします。

まずは好評の新連載、ファシリテータのための新知識、第2弾です。高知市総務部防災対策課の今西剛也さんがお書き下さいました。(2ページから)

高知市役所の星：今西剛也さん

みなさんはじめまして。高知市防災対策課の今西です。現在の部署に配属となって2年が過ぎようとしていますが、じつは、前職場（生活保護ケースワーカー）の9年間も、災害対策本部の避難所班総務（避難所開設･運営）という副業をしていた関係上、その間に高知市で起こった様々な災害に携わってきました。そのなかでは、現場で判断しなくてはならないこともしばしばで、「結果オーライ」で何とか切り抜けてきましたが、本当は「行き当たりばったり」「思いつき」が判断の主流を占めていました。　(^_^；

さて、今回は神戸編1003について私の経験から少しお話させていただきたいと思います。

クロスロード要援護者版堂々の公開です

第2号で短くご紹介したクロスロード災害時要援護者版の全貌をご紹介します。

この要援護者版は、2006年1月の呉市社会福祉協議会主催の災害対応研修で使われました。

研修の様子も含めて4ページにご紹介いただきました。

クロスロードの新しいルールをご紹介します

タイプAと、タイプBと2つあったクロスロードに新しいタイプCルールができました！

発明者は愛知教育大学の杉浦淳吉先生。大学生にくり返しクロスロードを実施して下さっています。1回だけに終わりがちなクロスロード。何回もやるとどうなるのでしょう？その実施報告と共に、タイプCルールをご紹介いただきます。

6ページから紹介です。

目次

今西さんが解説です！　1
要援護者版紹介　1
クロスロード新ルール　1
援助物資考　2-3
要援護者版堂々公開！　4
ファシリテータ進級認定　5
こんなところに心理学(3)　5
名案？　5
大学生がクロスロード　6-7
ぼうさい駅伝新発売！　8
わかっていても。。。　8

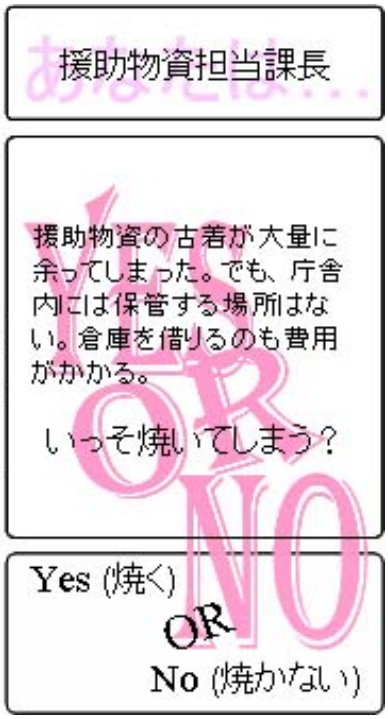
クロスロード次号のご案内
発行予定日：５．８．
クロスロードの新作問題、またまた発表です。
実践報告も続々、こうご期待！

責任編集

- チームクロスロード
- クロスロード・サポーター
- SPECIAL THANKS:
  高知県危機管理課
  小溝　智子（漫画企画）

ちょっと待った！このカードに答える前に：援助物資考(神戸編1003)

【神戸編1003】



高知市では、平成10年9月24日から25日にかけて最大1時間降水量129.5mm、最大24時間降水量861mmという高知地方気象台観測史上最悪の豪雨に見舞われました。わずか2日間に年間降水量の1/3が降り、市内では約2万世帯が浸水、残念なことに7名の尊い命が失われました。（高知では通称９８`豪雨といいます。）

市中心のアーケード街も一時冠水するなど被害は市全域に及びましたが、特に被害が大きかったのは市東部の地域でした。24日遅くに河川堤防を越流した濁流は、一部地域では2mを越え、突然の浸水に信号機の上やガソリンスタンドの上に避難して一夜を明かした方もいました。

私は、避難所開設を指示する役割でしたが、夜間の増水でしかも情報が錯綜したために初動が遅れました。避難所担当に開設指示をしても避難経路の道路冠水や避難所そのものが浸水のため開設できなかったり、あるいは避難所担当職員宅が既に浸水していたりして避難所開設は容易ではありませんでしたが、20時の開設開始から翌0時30分までの間で38箇所を開設（浸水したエリアには60箇所程度避難所があります。）しました。

★もう一つのジレンマ（高知県版002）も★

じつは、この出来事にクロスロード高知県版002（あなたは市町村の防災担当課長です。午後5時大雨洪水警報，雨は降り止まず各所から浸水の報告。午後9時には時間雨量100ミリを超える雨となりやむ様子はない。首長に「避難勧告」を進言する?）のジレンマがあります。夜間で既に浸水が始まっている。しかも初動は遅れている。避難所は一定開けることができた。避難勧告を行うか否か・・・・・。結果、高知市では避難勧告は行いませんでした。既に時遅し。避難をするほうが危険を伴うとの判断です。実際、急激な水量の変化によりマンホールのふたが持ち上げられ、そこに吸い込まれて亡くなった方もおいでました。

前段が長くなりましたが、翌日からは未だ水が引ききらない中、救援作業が始まりました。私は避難所開設担当改め、救援物資の現場担当として、災害救助法のもと避難所等への食糧供給と、各企業や団体をはじめ一般の方からの義援物資の受付、整理、配布の作業を行うこととなりました。

私が現場へ入ったのは25日の朝、何がどのくらい必要なのかも全く把握できないまま、消防署のトラックを借り、備蓄食料（サバイバルフーヅ）と毛布を積めるだけ積んで、まだ水が引かない国道をボートさながらに進みました。夕方には、製パン会社からの大量の菓子パンや善意の炊き出しをいただきましたが、パン以外は配布できず（衛生上の問題から）一部はダメにしてしまいました。25日夕方には水位も下がり始め、浸水地区を回って食料提供必要数の実数調査に入り、複数の弁当業者に頼み込んで数百食の配食を開始しました。（浸水が酷かった市東部と一部の地域以外は、翌25日午後には平常の生活に戻りつつありました。このことは、高知市以外の方には、マスコミだけの情報ではなかなか理解できなかったと思います。⇒実際、25日夜には避難場所で泊まっていた私の携帯に宴会の誘いがかかってきました。）

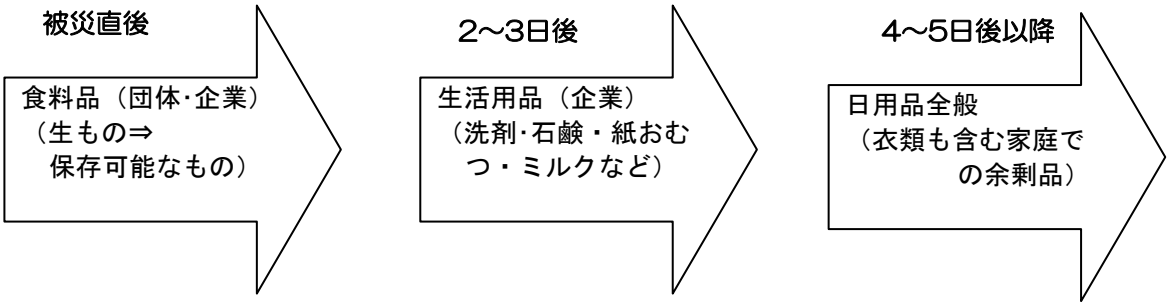
★大量の物資が届き始める★

27日には、活動拠点を被災中心地に近い市の東部健康福祉センターとし、事務室の一部を間借りして現場事務所（のようなもの）を立ち上げ、1階ホールと中庭と2階会議室を物資集積場所として活動を始めました。このころには、マスコミで高知市の惨状が取り上げられたこともあり（阪神淡路から間もなかったことも一因では・・・）大量の支援物資が届けられ始めました。当初は、その善意に「みんなこんなに高知のことを考えてくれているんだ」「ほんとうにありがたいね。」と考え、作業も順調に進んでいました。しかし、次の日からは、予想を越える大量の援助物資が届けられることになったのです。

翌28日朝のミーティング（自然発生的に避難所運営・物資・罹災証明・災害救助法等のグループ間のミーティングを朝晩やるようになっていました。）では、物資の活動拠点を急きょ、より広い東部環境センター体育館（市営）に移すことを決定しました。このころには、県・市社協の「ボランティア活動ベースキャンプ」や「高知元気村」等も開設され、ボランティア団体や町内会、民生委員、市職員等により被災者のニーズが把握できはじめ、一部の方にはその人たちを通じて、ニーズに応えることができるようになりました。

（個人単位への配付方法が確定できず、困りました。
←行政は公平でないと・・・）

しかし、物資は増えつづけ、動員をかけた職員では整理すらできなくなってきました。援助物資が送られてくる流れは、大別すると次の図のようだったと記憶しています。



★物資の配布会★

時間がたてば、被災を知った方が生活用品全般にわたって送ってくれましたが、（バザーにだすものがダンボール箱に入って送られてくるイメージです。）これが曲者で、箱からだして仕分けをする必要があります。特に衣類（下着を含む）については、種別・サイズもばらばらで、おまけにあきらかに古着（×ビンテージ）のものもあり、今の日本では使う人がいるの？？というものもありました。結局、ボランティアの方の協力を得て徹底的に分別作業を行い（3日くらい懸かった記憶がありますが）被災９日後にして、被害の大きかった大津地区の小学校体育館で物資の配付会を行いました。スコップやつるはしなどの片付けに必要なものから、下着、石鹸やシャンプー（試供品含む）、毛布、子供のおもちゃ、中古のテレビ、エアコン、冷蔵庫、ガス湯沸し機、等々ありとあらゆるものを配付しました。もちろん、この配付方法（来た人だけ）がベストではなく特に会場まで来られない人に圧倒的に不利で、同種のものは配付数を決めていましたが、何回も会場に訪れてトラックで物資を運んでいく方もいたように思います。

この後も同じ作業を繰り返し、他の２地区でも配布会を行いました。中古の布団や古着、中古電気製品などは最後まで残りました。マスコミ等を通じて援助物資について受付を終了した旨を広報しましたが、すべての整理を終え、受入場所を完全に閉鎖したのは１２月２８日でした。

★高知市の選択は。。。★

長くなりましたが、神戸編1003のジレンマに対する高知市の選択は、「古着を焼却する」でした。もちろん、体育館には古着のみならず配布会を催しても引き取り手のなかったものがたくさん残っていました。援助物資を送ってくださった方の気持ちを考えると、捨てたりすることは申し訳ないのですが、現実的には、役に立つものは既に配付済であること、保管場所の問題等により廃棄処分とさせていただきました。

★救援物資のルール化を★

この災害で救援物資の問題を通じて感じたことは、

・災害時における被災者のニーズを的確に把握、選別し情報発信することが必要。

（マスコミへの情報発信のルール化も必要）

・災害時の救援物資送付についてのルール化（種別、サイズ別）。する。

・配布方法の構築

等です。つまり、阪神淡路以降だったにもかかわらず、同じジレンマを繰り返したということです。もちろん、最低限の生活用品を含む行政備蓄（流通備蓄を含む）も必要です。

また、たくさんの援助物資と同時にたくさんの義援金もいただきました。これについては被害調査結果に基づき分配され、もちろん、地域再建の原資となったことは言うまでもありません。被害が大きかったところが市の一部だったことを振り返ると、この災害では「モノ」より「現金」が一番良かったのかもしれません。私見ですが、災害直後は「モノ」、つぎは「ひと」、最終的には「カネ」という3つの段階の援助をトータルに活用できるしくみを援助する方、される方、共通の認識としていくことが必要ではないでしょうか。

現在、備蓄や援助物資等についてのガイドラインが内閣府や消防庁より示されようとしています。つぎの災害に際しては、過去の教訓やガイドラインに基づき同じジレンマを繰りかえさないようにしたいものです。

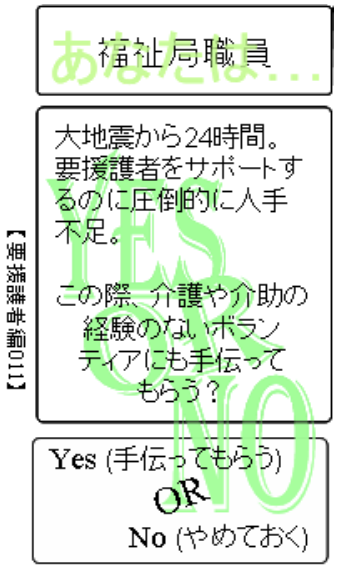
最後に、「９８`豪雨」に際しまして援助をいただきました全ての皆さんにこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

（高知市　今西剛也さん）

新作です！クロスロード要援護者版のご紹介

呉市消防局の林国夫さんから、クロスロード要援護者編の実習会のご紹介をいただきました。問題は、前号につづき、カード形式でご紹介しています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊



クロスロードの新分野，「災害時要援護者編」。芸予地震（2001.3.24）から５年を迎えるのを前に，１月２６日（木），広島県呉市において，吉川先生，矢守先生をファシリテータとしてお招きし，災害時要援護者版に特化したクロスロードを開催しましたので，ご紹介します。

主催は，呉市と呉市社会福祉協議会。参加者は，社会福祉施設職員，民生児童委員，災害ボランテイア，行政（防災・福祉・消防）ら約１５０名。参加者の特徴として，平成１１年6・２９豪雨災害，平成１３年芸予地震，平成１６年台風災害と近年３度も甚大な被害を受け，支援者でありながらも被災経験を持つ，「災害福祉」には特別な思いを持つ方々ばかりです。

要援護者版の問題は，2004年に発生した，「７・１３新潟県豪雨災害」「１０・２３新潟県中越地震」の教訓を踏まえ，①要援護者情報，②避難行動，③安否確認，④避難支援，⑤生活再建といったカテゴリーから２０問で構成されています。当日実施した問題の一つとして，今盛んに議論されている，「福祉（課）保管の要援護者リストを，自主防災組織や災害ボランティアに提供する意見に賛成？」という問題には，

ＮＯ「隣近所で要援護者の皆さんを全て把握しているから充分。地域でその方々を，きちんと守る」（民生児童委員）

ＹＥＳ「ＮＯからは，何も始まらない。ＹＥＳと捉えて，このことを真剣に考えていきたい」（防災担当職員）

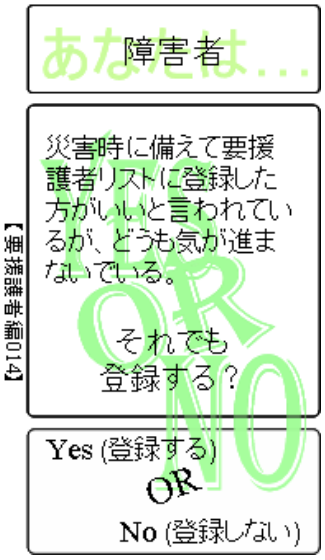
と，賛否両論，非常に貴重な意見が，テーブルごとに出され，要援護者の支援について，相互に理解を深め，災害福祉への課題の抽出・問題解決の提案がなされました。参加者は，福祉への専門知識はもちろん，地域や仕事へ「愛と情熱」を持たれた方々ばかりで，クロスロードが始まると，会場は，甲論乙駁・議論百出で本当に白熱しました（実際，室温が上がりました）。

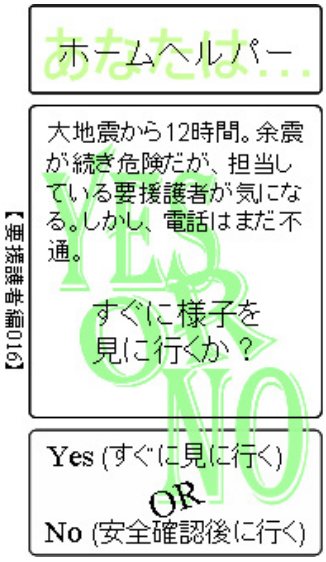
また，福祉という分野は，「とても広く，そして深い」ことから，問題や解説に使用する用語を，統一・精査する必要があり，呉市社会福祉協議会が，それに協力させて頂きました。

今回，要援護者版は，初の試みということもあり，問題作成を始め，解説やなど色んな課題が見つかりました。次号では，要援護者版を実施するに当たっての経緯，問題・解説の作成の“苦労話”，アンケート結果からの検証などを，携わった社会福祉協議会・行政それぞれの立場から報告をさせて頂きたいと思います。

（広島県呉市消防局　林国夫さん）

「一斉に意見表明」もやっていただきました！





クロスロード進級認定です！

2号以降、以下の皆様からクロスロード実施報告を頂戴いたしました。ありがとうございました。認定証をお送りしました。

(報告順。敬称略)

[中級]　神戸市消防局中央消防署　吉本和弘

神戸市保健福祉局健康部 熊崎雅子

[上級]　静岡県東部地域防災局　板坂孝司

【進級報告応募先】
108-8345
港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部
吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局
電話：06-5427-1251
ファックス：03-5427-1578
メール：kikkawa@aoni.waseda.jp

【注目！】電子投稿も可能になりました！
http://maechan.net/crossroad/toukou.html

こんなところに心理学(3)：心の中の不協和音

お休みしていました心理学のミニ知識。今号復活です。

心理学に「認知的不協和理論」（にんちてきふきょうわりろん）という名前の理論があります。難しい名前ですが、この理論は、音楽の和音から名前を借りています。鍵盤でドとミの音を一緒に押さえてみてください。いい感じの音(協和音)ですね。でも、ドとレを一緒に押さえてみたらどうでしょう？なんだか変な感じに聞こえると思います。これが「不協和音」と呼ばれているもので、認知的不協和理論では、人の心の中にこういう不愉快な和音が響いている状態を問題としています。心に中に不協和(音)があると、人はせっせとそれを解消しようと努力する、というものなのです。

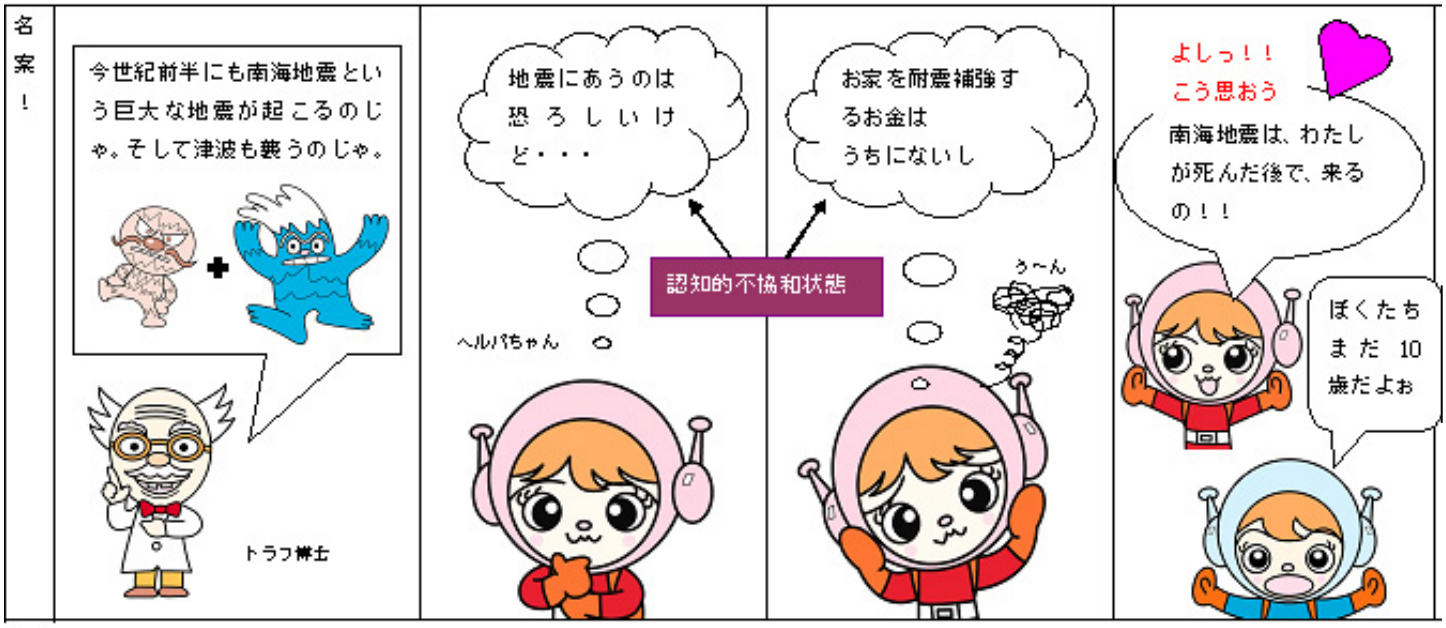
この理論が考え出されるきっかけは、1954年のあるカルト教祖の予言でした。それは12月20日に大洪水が発生して世界が破滅する、というもの。もちろん、現実にそんなことは起こるはずもなく、予言はおおはずれでした。しかし、この教団の信者は信仰をやめるどころか、ますます信仰を深めていったのです。いったいどうしてでしょう？

それは、「大洪水の予言」と「実際に起こらなかった」という2つの考えが矛盾している状態は人々にとっては不愉快なので(これを「不協和状態」といいます)、これを解消しようと信者は努力をするのです。この場合、「洪水が起こらなかった」という事実は変えられませんから、「私たちの信仰が深くて世界が救われた」と、考えるようになった、というわけです。

地震の後に起こるうわさに、「余震がくるぞ」というのがあります。この現象も認知的不協和理論で説明できます。「大変な地震が起こった(自分が被害を受けた)」という現実と「(その割には)その後何も起こっていない」という認識とが、心の中で不協和を起こしているのです。そのため、「そのうちに大きな余震が起こるかも知れない」と考えて、現実に折り合いをつけるのです。「何も起こらないなら結構なこと」と、簡単には言えないですね。

名案？！

©やなせたかし



大学生が取り組むクロスロード

大学生がクロスロードに取り組んだ結果を杉浦先生が報告下さいました。学生さんが書いた解決方法(写真)にもご注目下さい。

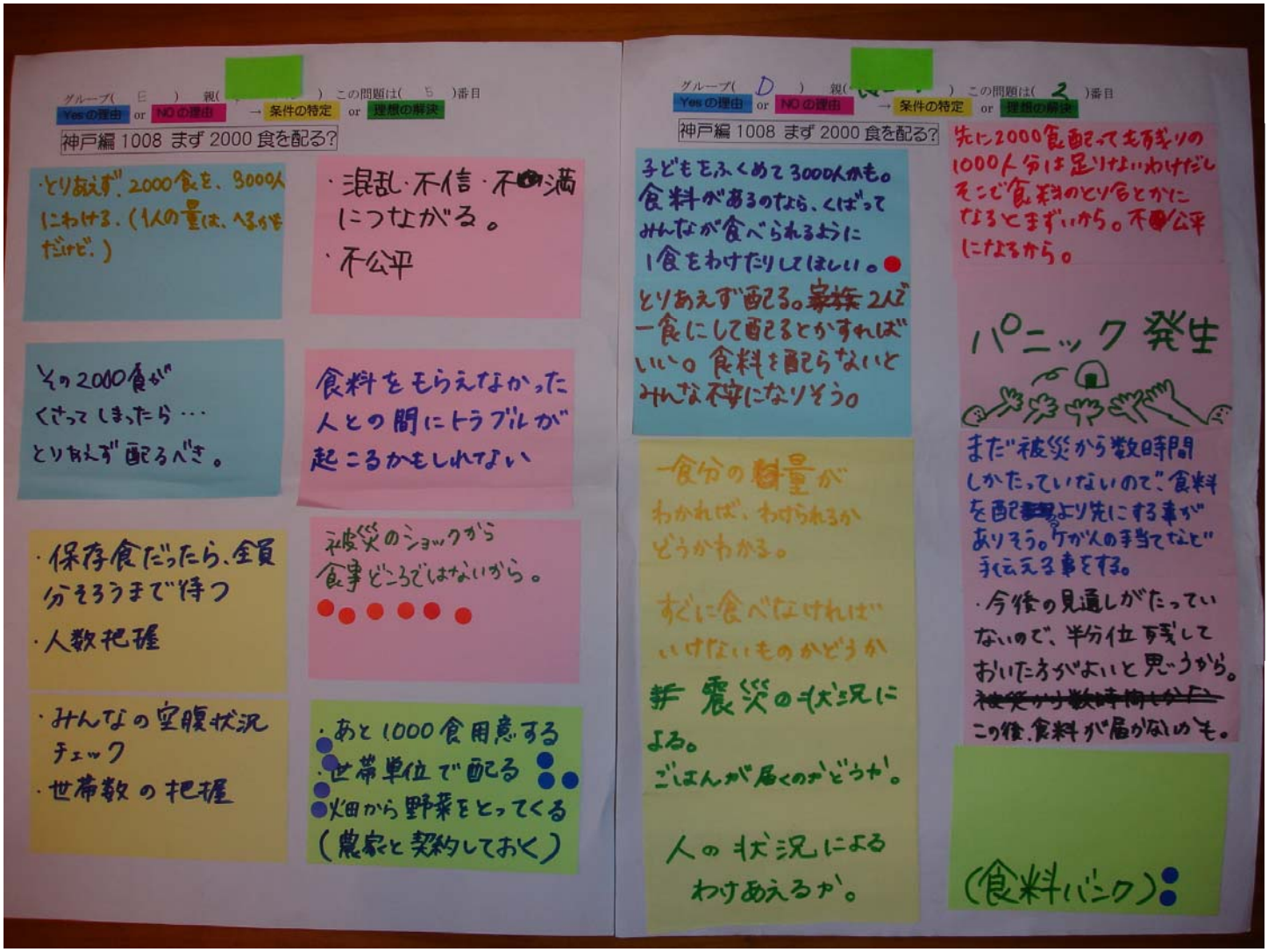
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

クロスロードは防災対策(教育)のためだけにあるのではありません。他者の判断を予測しながら自分の判断を決める作業そのものから集団における意思決定についての様々なトピックを学ぶことができますし，その過程でジレンマに対する新たな解決策が生み出される可能性もあります。

そこで，大学の授業でクロスロードを利用することにしました。取りあげたのは愛知教育大学教育学部の共生社会コースにおける「グループダイナミックス」という講義です。集団での意思決定やリーダーシップなど，集団についての様々な側面を学ぶことが目的です。教科書として『防災ゲームで学ぶリスクコミュニケーション』を使用しました。授業の中ではクロスロードを計3回，異なるテーマとルールにより実施しました。なお，受講者は筆者が担当する別の授業で，いくつかの教育ゲームを経験している学生です。

★議論の可視化のための「集団クロスノート」★

2005年11月21日，参加者は26名で，5人グループ4つと6人グループ1つを編成し，『市民編』20課題を使用して1回目のクロスロードを実施しました。ゲームを進行させる際，Yes/Noカードをオープンした後，それぞれの選択の理由を，Yesの場合は水色の，Noの場合はピンク色の付せん紙にそれぞれ書いてもらい，A3用紙に，書けたプレーヤーから貼り付けていきました。各グループにはマーカーの8色セットを用意し，それぞれ好みの色を選び，どのカードを誰が書いたのか，後でわかるようにしました。最後の10分で，理由を貼り付けたA3用紙を，その事例(カード)を選んだプレーヤーが簡単に整理しました。ゲーム中は，単に台紙に貼り付けるだけだったものを，Yes，No別，あるいは内容別に，貼る



学生が考えたイエス・ノーの理由と解決法（神戸編1006）：2000食を配る？(青カードは「配る」の理由
ピンクカードは「配らない」の理由。黄色カードは「条件の特定」。緑カードは「新しい解決」。
青いシールは「なるほどと思った新しい解決」，赤いシールは「意外な理由」）

位置を変え，番号だけで書いてある状態に対して，その事例の内容を簡単に要約し，見出しをつけ，グループごとに「集団クロスノート」を完成させました。

Yesの理由，Noの理由について，プレーヤーはおおむね積極的にマーカーを走らせていましたが，「YesかNoか」という究極の選択により，判断のための多くの理由を頭の中で考えていたからではないでしょうか。どちらの選択がよいかの単なる議論では，この積極性は出なかったかもしれません。

続いて，2006年1月30日，参加者は22名，5人グループが2つ，6人グループが2つを編成し，『神戸編』をタイプA（「自分の意見を言う」ルール)で実施しました。

ここでは Yesの理由，Noの理由に加え，判断のための「条件の特定」を黄色の付せん紙に，Yes／Noを超えた第3の解にあたる「理想の解決」を黄緑色の付せん紙に，それぞれ記入するという課題も同時に行いました。(写真参照)

一つの問題に対して10分から15分程度の時間をかけ，全プレーヤーが1通りカードを選ぶまで実施しました。「条件の特定」と「理想の解決」は，問題カードを選ぶ「親」が順にまとめるようにしました。

以上の作業から，問題についての集団クロスノートがプレーヤーの人数分作成されました。翌週の講義で，全員分のクロスノートを教室の机に並べて，「理想の解決」に対して，シールを用いて1人3票の投票(持ち点を自由に配分できる)を行い，クラス全体での振り返りを行いました。

ちなみに，得票が最も多かったのは，「自然発生的に避難所になった市庁舎から避難者に出ていってもらうかどうか」(神戸編1012)に対する「事情を説明する，また立ち入ってはならないところと避難所にするところを区別→居てもらう」(10票)でした。このときの条件は，「近くに避難所が空いているか。避難所の空き具合」「庁舎が避難所に適しているのか」「避難してきた意図の状況にもよる。けがの具合等」で，YESとNOはそれぞれ3人で拮抗していました。専門家ではないプレーヤーは，それぞれの判断理由のもとに条件を設定し，条件に応じて説明する，という解決を導き出していました。

★判断の視覚化としての新ルール「タイプC」★

既存のルールでは，何を予測させるかに応じて「タイプA」（「自分の意見を言う」)か「タイプB」（「多数派を予測」)が存在しています。今回の実践では両者を利用することで，教育効果を高めることを狙ってきました。

この中でファシリテータとしての経験上，1点気になるところがありました。それは多数派予測のタイプBにおいて，ついつい自分の意見を表明してしまう可能性があるということです。そこで，自分の意見と他者の意見の予測を分離して提示するようにすれば，この問題がクリアされると考えました。ここでは，オリジナルルールにおけるタイプAとタイプBの組み合わせた「タイプC」を紹介します。

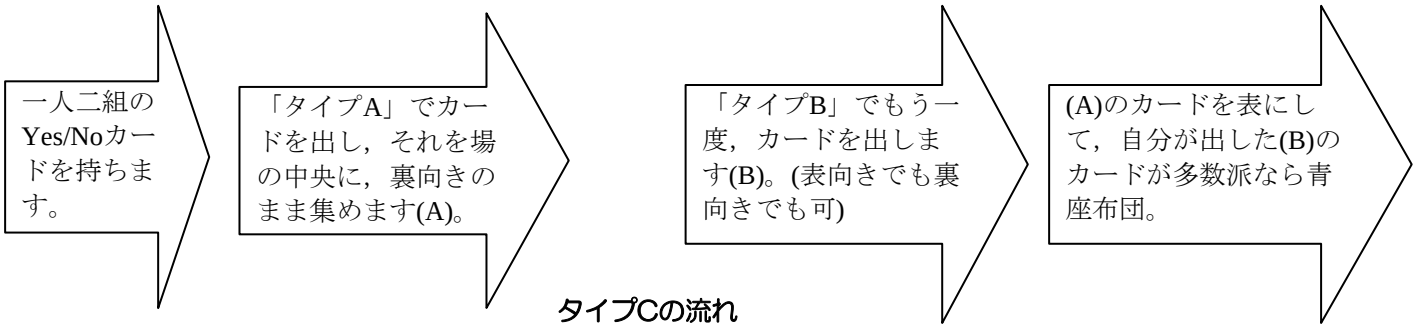
まず，全員が2組(2枚ずつ)のYes/Noカードを持ちます。最初に「タイプA」(「自分の意見」)でカードを出し，それを場の中央に裏向きのまま集めます。ここで場のカードを表にはせず，「タイプB」（「多数派を予測」）でもう一度カードを出します。この場合，表向きで出してもいいし，出揃った後で表にしてもよいでしょう。

勝負は，タイプAで出したカードを表にしてみて，多数派と同じカードを出していたプレーヤーが青座布団をもらいます。また，少数派(1人だけ)を予測できた場合に金座布団が得られるルールを適用することもできます。オリジナルでは金座布団が得られるのは1人だけですが，この場合は複数のプレーヤーが金座布団をもらえる可能性があります。

タイプCのメリットは，多数派を頭の中で予測せずに，場に山となっているカードにYesが多いかNoが多いかを予測できることにあります。このことから，タイプBで「多数派の意見」の予測をより正確に(頭の中で混乱することなく)行うことができるでしょう。他者の意見を予想するには，まず自分がどうするかを考えならず，結局自分の意見を表明してしまうこともあるからです。場に出されたリアルなカードを見ることで，他者が下した結果の集合を「裏向きのカードの山」として「視る」ことができます。その中にYesが多いかNoが多いかは，頭の中で予測するよりも，視覚化することでシンプルに考えられます。YesとNoの意見分布の把握と意見分布の予測を同時に行えることが，このルールの最大のメリットであり，面白さではないでしょうか。

また，最初にタイプAでカードを出す際に，個人の判断が集団の中で明かされます。その際，個人の意見を匿名にする方法として，Yes/Noカードを出す際に，出したカードを混ぜた後にオープンにする，という方法が使えます。つまり，自分の意見を表明せずに，そのグループでYesとNoのどちらが多数派かだけ明かす，ということです。この方法は，個人の意見については明らかにならないので，集団クロスノートで理由を明示するということとは対照的なやり方といえるでしょう。

(愛知教育大学　杉浦淳吉先生)



タイプCの流れ

走らない駅伝です！ぼうさい駅伝新発売！

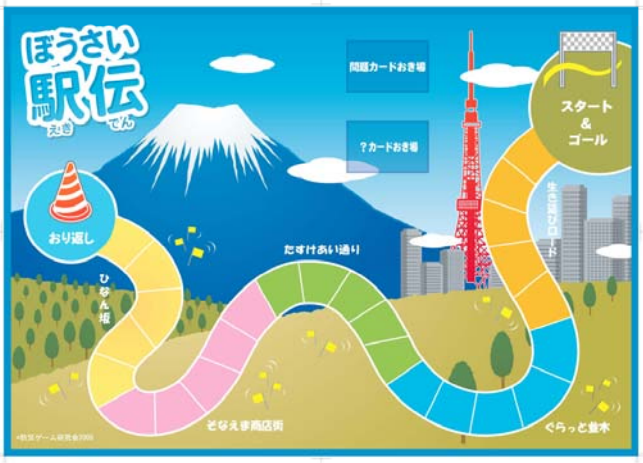
11月の研修会でご紹介しました「ぼうさい駅伝」が、お問い合わせが多いことから、市民防災研究所から発売になりました。ボードもデザインー新でおしゃれな感じに仕上がりました。遊びながら防災の知識が身につくすぐれもののゲームです。

「ぼうさい駅伝」は、一見、普通のすごろく。サイコロをふって前に進みます。でも、その前に、問題カードに書かれたクイズに正解しないと前に進めません。クイズは防災に関する基本的な知識とトリビア問題で構成されています。はたして正解できるのか？

時々いじわるなカードもでるかもしれません。こけたりするかもしれませんよ。。。ご用心 。

ぼうさい駅伝はチーム対抗で行います。チームで協力して、たすきをつなぎ、早くゴールにたどり着きましょう。

たすき、ボード、クイズカード、サイコロ、コマー式がついて1890円です。1セットで8人くらいまで遊べます。チームでなく個人戦を競う「マラソン」としても遊べます。

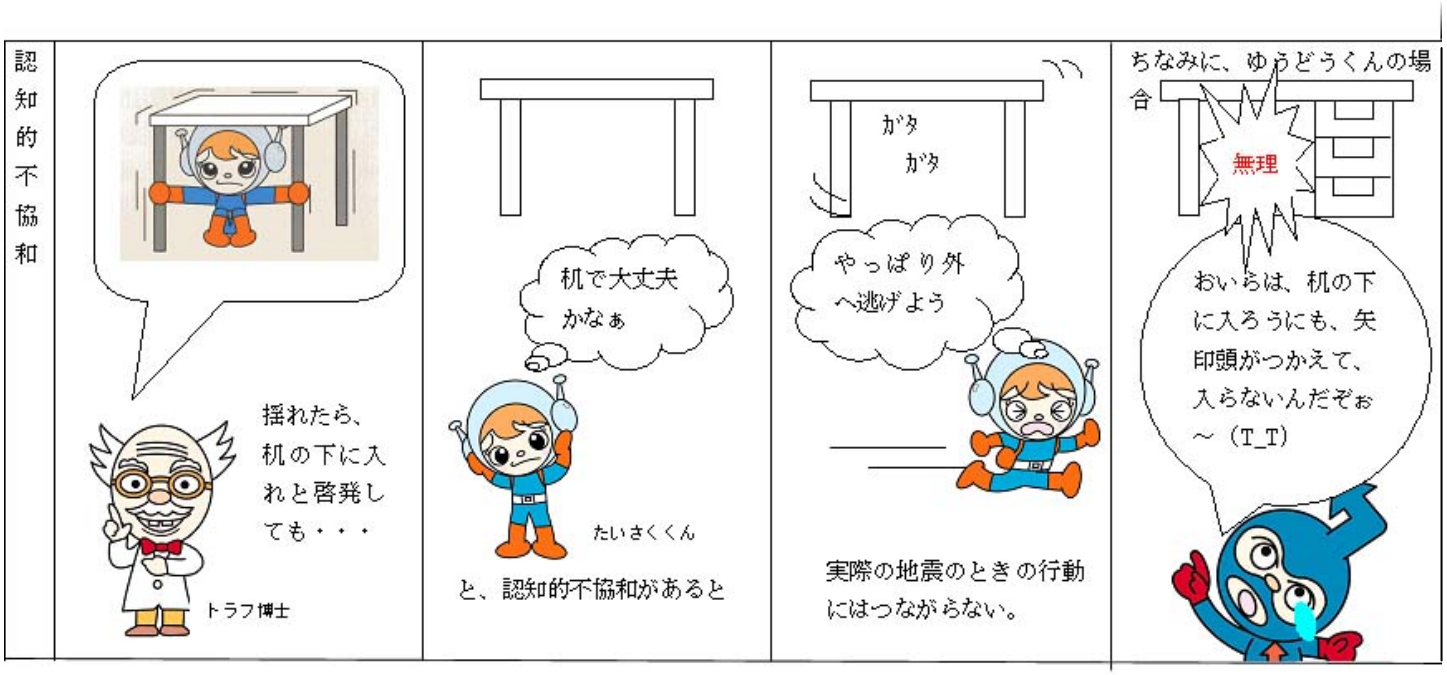


お問い合わせ・お申し込みは、下記の市民防災研究所へ。

〒136-0072　東京都江東区大島4-5-14
shimin@sbk.or.jp
tel.03-3682-1090 fax.03-3684-1198

わかっていても。。。

©やなせたかし



「職場での”机の下”避難の実験」
（高知県総務部危機管理課）
机の下に入れなかったのは、
ゆうどうくんだけじゃなかった・・・

僕なら入れます。。。